



武 一 中

令和 8 年 5 月 11 日
武蔵野市立第一中学校
学校だより R8-4 号

[URL:https://dai1-jh.musashino-city.ed.jp/](https://dai1-jh.musashino-city.ed.jp/)

鶏口牛後

校 長 中嶋 建一郎

話を聞くときに、内容も重要ですが、この人から聞くと分かりやすいとか、納得できる、印象深かったと感じたことはありますか。最近、私が印象深く感じた話を紹介します。

「学力の経済学」という本を以前に読んだことがあるのですが、その著者、中室牧子さんの話を聞く機会がありました。中室さんは大学教授で、どんなことにお金をかけると教育効果があるのかを研究しています。教育経済学といいます。世の中には教育に関して極端な例を挙げて目を惹く、関心を集めるものが多くあるが、それは特別なことで、この学問では多くの人に関係する内容を科学的根拠に基づいて扱っているとのことでした。

直接話を聞くというのは興味を惹く効果が絶大でした。講演を聞いた後、私はすぐに最近出版された「科学的根拠で子育て」という本を読みました。その本の中にも講演で話していた内容があり、それが今日皆さんに伝えたいことです。こんな話です。

同じくらいの成績の2人、学力が高い学校にギリギリで入った人と、学力がそこまで高くない学校に余裕で入った人とでは、その後の学力にどのような変化があるのかという話です。皆さんはどちらの人の学力が高くなったと思いますか。

学力が高い学校に入った方が、切磋琢磨して、またはより学力の高い人に引っ張ら

れて学力が高まると考えますか。そこまで高くない学力の学校だと余裕すぎて、それほど頑張らず、足を引っ張られて伸び悩むのではないかとこの考えもありそうです。

ところが、中室さんが示した研究結果は、そこまで学力が高くない学校に入った人の方が、その後の学力が高くなっているというものでした。

「鶏口（けいこう）となるも牛後（ぎゅうご）となるなかれ」という言葉があります。「鶏口」は鶏の口、つまり小さな組織の長を指し、「牛後」は牛の尻、つまり大きな組織で従う者を意味します。これは、大きな組織の末端にいるよりも、たとえ小さな組織であってもそのリーダーになる方が良いという意味のことわざです。中室さんが示した研究は、この言葉と同じような結果になっているのです。

私はこれまで、学力が高い仲間には囲まれば高くなり、そこまで高くないのであればそれなりになると思っていました。「朱に交われば赤くなる」ということわざを思い浮かべる考えでした。そこが覆されたのも印象深くなった理由です。

皆さんがそういう状況になった場合の参考にしてみてください。もちろん全ての場合でそうなるわけではないことも付け加えておきます。3年生は、進学先を決定する時に思い出してみてください。